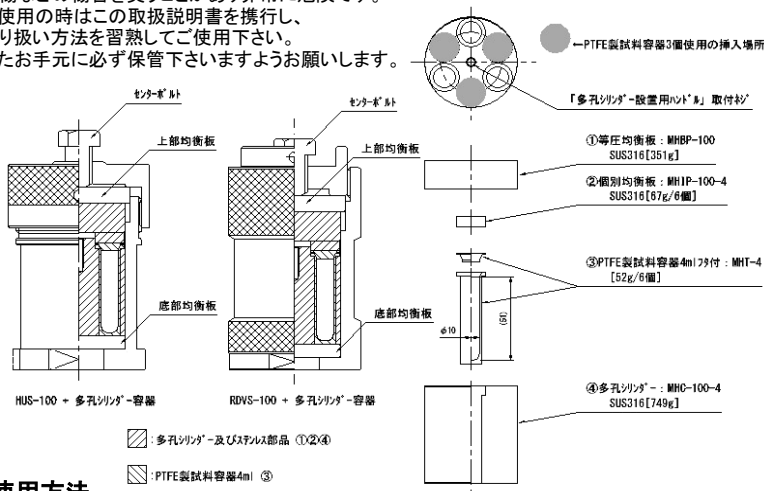


多孔式シリンダー容器「MH-100-4」取扱説明書

この度は多孔式シリンダー容器「MH-100-4」をお買い求め頂き誠にありがとうございます。
本製品は取り扱いを誤ると正しい検査結果を得られないばかりか、火傷などの傷害を負うことがあり非常に危険です。
ご使用の際はこの取扱説明書を携行し、取り扱い方法を習熟してご使用下さい。
またお手元に必ず保管下さいませようお願いします。



■使用方法

セット方法

本品は耐圧ステンレス外筒「HUS-100」「RDVS-100」(別売)に装填してご使用いただけます。
耐圧ステンレス外筒の底部均衡板が設置された状態で多孔シリンダー④を挿入します。
試料の入ったPTFE製試料容器③を多孔シリンダーに装填し、その上に個別均衡板②、
等圧均衡板①、及び耐圧ステンレス外筒の上部均衡板の順に設置します。
※PTFE製試料容器の架数は6個又は3個です。
3個のみ設置の場合は多孔シリンダーに1穴間隔で装填して下さい。
これ以降のセット方法は「HU-100」「RDV-100」と同様ですので、
別途それぞれの取扱説明書を参照して下さい。
「多孔シリンダー設置用ハンドル」(別売)を使用する場合は、
多孔シリンダーの上部中心にあるネジに取り付けて設置又は取出しを行って下さい。

締め付け及び開封方法

締め付け及び開封方法は「HU-100」「RDV-100」と同様ですので、
別途それぞれの取扱説明書を参照して下さい。
「PTFE製試料容器取出し用プレート」(別売)を使用する場合は、
プレートの突起に合わせて多孔シリンダーを乗せて下さい。
センターボルトの締め過ぎはPTFE製試料容器の耐用回数を低下させますのでご注意下さい。
トルクレンチ(別売)を使用する場合は、設定値を18N・mlにして下さい。
※保護メガネ、耐熱・耐酸手袋を必ず着用して下さい。
※容器温度が充分下がっていることを確認してから開封作業を行って下さい。
※開封はドラフトチャンバー、グローブボックス等で行い、万一のガス噴出に充分備えて下さい。
※内圧が残っている場合は試料が吹出す危険があります。

■注意・警告・厳守事項(破裂、火傷の恐れ有り！)

- 容器内の異常な圧力上昇は容器の破裂や酸の噴出を引き起こし、**重大な事故につながる恐れがあります！**
- 多孔シリンダーを設置した場合の最高使用温度は180℃を厳守して下さい。
- 溶質、溶媒共に少量から試みて下さい。
- 本容器は有機物の反応・分解には特に注意が必要です。
有機物を含む試料を取り扱う場合は、必ず予備分解してから行って下さい。
- 反応ガスが多量に発生すると予測される実験も、必ず予備分解を行って下さい。
予備分解：換気の良い場所で予め試料と酸を解放下で反応させ、脱ガスまたは灰化させる。
- 熱風循環式オープンで本容器を加熱する場合、熱風吹き出し口付近に置かないで下さい。
- 何らかの原因で本容器から漏れ出した試料に引火する恐れがあります。
加熱には防爆型機器の使用をお勧めします。
- 過塩素酸の使用は控えるか、極少量に留めて下さい。
- 火薬類など爆発性試料は絶対に入れないで下さい。
- 加熱開始時は周囲に注意を促して下さい。
- 容器温度が下がっている場合でも内圧が残っており、開封時にガスが噴出する恐れがあります。
保護メガネ、耐熱・耐酸手袋を必ず着用し、換気の良い場所で行って下さい。
- 開封はドラフトチャンバー、グローブボックス等で行い、万一のガス噴出に充分備えて下さい。
- SUS部品の先端部は鋭くなっています。切傷等に充分ご注意下さい。
- 無断で修理、改造をしないで下さい。
- PTFE製試料容器は消耗品です。蓋と本体の密着面に変形、傷などが生じると加熱時に
内容物が漏れ出る可能性があります。その場合は速やかに新品とお取り替え下さい。
- 三菱科学㈱製以外の部品は使用しないで下さい。
- **万が一、SUS外筒又はSUS部品が膨張による変形、あるいは亀裂などの異常を生じた場合は無理に開封せず、弊社までご一報ください。**

 **三菱科学株式会社**

〒462-0847 愛知県名古屋市中区金城2-11-17
TEL (052)915-2621 FAX (052)915-2622

sanaikag@ceres.ocn.ne.jp
<http://www.sanai-kagaku.co.jp>